勢風会・未来創成管外行政視察研修報告書

令和7年7月16日

伊勢市議会議長　浜口 和久　様

会　派　勢風会
幹事長　久保　真[redacted]
副幹事長　吉岡　勝裕[redacted]
　　三野　泰嗣[redacted]
会　派　未来創成
幹事長　北村　勝[redacted]
副幹事長　鈴木　豊司[redacted]
　　大西　要一[redacted]

令和7年7月8日～9日の2日間に、会派勢風会、未来創成の合同にて下記の視察研修を行いましたので、その概要結果について次のとおりご報告いたします。

記

◎視察場所（1日目）
<栃木県日光市>
日時　　令和7年7月8日（火）9：30～11：00

場所　　日光市役所

視察研修項目　ちょこっとスタバケ日光の取組みについて

説明者　[redacted]商工課長
　　[redacted]学校教育課長
　　[redacted]商工課工業係長
　　[redacted]学校教育課長補佐兼学校教育係長
　　[redacted]商工課工業係

収受
7.7.16
伊勢市議会

<視察研修　概要>
1.　背景と課題
・少子高齢化による労働人口の減少や働く人のニーズの多様化などに対応が必要。
・全国知事会では、令和5年6月、働く一人ひとりが多様な休み方を選択し、充実した余暇

を過ごすことで生活を豊かにするだけでなく、仕事の質を高め、ワークライフバランスの充実へとつながる休み方改革を進める提言を発出。
・休み方改革は、観光産業を始めとしたサービス産業においては、休暇取得が分散されることを通じて、需要の平準化による経済効果も期待できる。
・日光市は他の地域に比べ、観光を始めとしたサービス業が盛ん。
・祝休日に働いている方も多く、平日の休暇日に子どもと一緒に過ごすことが難しい家庭が少なくない。
・ワークライフバランスの充実のため、市内産業において年次有給休暇の確実な取得を推進する。
・子どもと保護者のふれあいの機会を増やすことで休暇満足度の向上を図る。
・安定した雇用の確保、生産性の向上を推進する。

2. 制度の趣旨と名称
・企業や個人単位で休日を柔軟に選定できる環境づくり。
・欧米と比べて低い水準にある有給休暇の取得推進。
・子どもと家族が一緒に休める環境や仕組みづくりを参考に制度を進める。
・当市特有の課題である平日の休暇日に子どもと一緒に過ごすことが難しい現状を改善し、休み方改革の推進と平日の家族との学びとふれあいの機会を増やすため。
・ちょこっととは
年間最大で３日取得可能な制度で、気軽な利用を促進する意味を込めている。
・スタバケとは
子どもの学習（スタディ）と保護者の休み（バケーション）を組み合わせた日光市オリジナルの造語。平日の家族との学びと、ふれあいの機会を設ける。

3. 制度の内容
・平日の保護者等が休みの日に、子どもと一緒に学び、活動できる制度。
・年に３日活動休暇（連続も可）を取得できる。
・学校外での自主学習活動とするため、欠席とはならず、「出席停止・忌引等」と同じ扱いとする。給食費は未対応。
・制度の流れ　日にち・場所・内容を決める　→　事前に学校に届ける。　→
当日は保護者等と一緒に、体験や活動を行う　→　振り返り
・留意事項
活動休暇で受けられなかった授業は事前・事後における家庭での自習により補完する。
学校行事などのため、活動休暇を取得することが望ましくない日を設けることがある。
利用は任意であり、次年度に繰り越すことはできない。
・活動例
自然観察、体験活動、芸術活動、スポーツ・アウトドア、芸術鑑賞・施設見学、家族旅行、その他

4.　制度導入の効果

・特段大きな問題点はみられない。

（企業・保護者）

・余暇満足度の向上、年次有給休暇の取得促進、市内産業の組織力強化と業務効率の向上が期待できる。

（子ども）

・様々な活動による体験や出会いが知識や見聞の拡がりにつながるとともに、新たな発想を生み出す力となる。

家族の絆が深まる。

（学校）

・教員が制度を利用することで、教員自身が働き方を見直すきっかけとなり、休み方改革を推進できる。ダイバーシティに対応した学校運営につながる。

・教員の負担をできるだけ生じさせないように、「届け出シート」の提出のみとしている。

（市）

・休暇取得が分散され、観光を始めとするサービス業等において、需要の平準化による経済効果が期待できる。

・休日の改革が充実することで、市内産業の雇用確保のインセンティブ効果が期待できる。

5.　制度の開始

・令和６年４月から

6.　利用の状況

・令和６年度の利用状況

小学生３４．６％　中学生２２．８％

・利用地域

市内１１．１％　市外８６．９％

・利用日数

小学生１，７７５日　中学生６４２日

・活動内容

家族旅行５６．８％、スポーツ・アウトドア１２．３％、体験活動１１．９％、施設見学７．４％、芸術鑑賞５．１％など

7.　質疑

・保護者等はどこまで

原則保護者　様々な事情から少しあいまいに

・申請・許可しなかったケースは

ない

・参考にしたところは

愛知県を参考に

・制度の発案部署は

商工部門　働き方・休み方改革からの視点。

・議会での意見は

学びの保障は、スタバケを取れない子は、不平等ではとの慎重な意見も。

学びと遊びがあいまいでは。

・商工関係者の意見は

アンケートはまだ　おおむね高評価。

・学校数・児童生徒数は

小学校１８校　２，８００人　中学校１２校　１，５００人

・連続取得は

延べ日数のためわからない　GWなど連続した場合も。

・地域行事の扱いは

学校による。

・愛知県の名古屋市は取得できない児童生徒もある　実施していないが

不公平や不平等は致し方ない。

企業の休み方、ワークライフバランス、経営状況向上、取れなかった休みを取得。

・制度の弊害は

周知不足　市外に通っている児童生徒は対象外。

１人３日程度のため、それほどない　行事があっても認めないわけではない。

少人数の学校では困る事もある。取得の望ましくない日を周知する。（市から）

・商工課内部での意見は

制度提案職員から　全国知事会からの働き方改革。

・進めていくことに課題はなかったか

教育委員会委員の半数は観光業。

教育委員会内では難しい　商工の休み方改革で進めていった。

学校の負担が少ないように　商工と教育委員会が連携。

やることを前提に進めた。

学校の負担少なく　教育委員会主導では進みづらい。

平日に休みを取っている親もある。（後ろめたさがなくなる。）

・その他の利用はどのようなものか

七五三での写真撮影、お祝い事など。

・制度利用の目標はあったのか

特になかった。

・学校の欠席が増えたのか

これまでとあまり変わりはない。

・市内での活動は

子どもと一緒に休みを取っていただくことが目的。

市内の探求もあるが、他部署での対応を検討したい。

・更なる課題は

保護者の課題、企業や児童生徒の感想も聞きたい。

◎視察場所（２日目）

日　　程：令和７年７月９日（水）　９時３０分～１１時００分

場　　所：栃木市役所(栃木県栃木市万町９番２５号)

視察研修内容：「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について」

[redacted]　栃木市議会　　議　長

[redacted]　総合政策部総合政策課課長補佐

[redacted]　地域振興部スポーツ課　課長補佐

[redacted]　産業振興部商工振興課（栃木市フードバレー協議会事務局）主査

[redacted]　産業振興部農業振興課課長補佐

（視察研修の概要）栃木市「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について」

1．背景と目的

栃木市は、近隣１市５町との合併が平成26年４月に完了。新しい栃木市となり、それぞれの地域資源とスポーツを結び付け、交流人口や地域産業の活性化を図ることが求められていた。

Ｊリーグ昇格を目指すプロサッカーチーム「栃木シティフットボールクラブ」が、ホームタウンとしているほか、ルートインＢＣリーグ所属の栃木県民球団「栃木ゴールデンブレーブス」が市内で活動し、試合を間近に観戦できる状況が生まれた。また、渡良瀬遊水地ではスカイダイビングや熱気球などのスカイスポーツ、カヌーなどのウォータースポーツを体験できる環境がある。

一方で、栃木市は農業が盛んで、米・麦・イチゴ・トマト・ニラ・ぶどうなどの多様な農産物が生産されているほか、多様な食品産業が立地している。

これらの個々のスポーツ資源、食資源、観光資源の連携を図り資源自体を更なるブラッシュアップが必要であるという課題をチャンスととらえ、各資源をつなぐための仕組みをつくり、不足する機能の洗い出しを進め、食とスポーツを活かした地域活性化及びビジョンとその実現方策を計画したものである。

2．食とスポーツを活かした地域活性化と観光振興ビジョン

市は、プロスポーツチームがあるという優位性を生かし、市民とスポーツのつながりを含め、来訪者へのお勧め資源を磨き、来訪者と資源をつないで再び来訪してもらえる好循環のまちとなることを目指すため観光振興ビジョンを策定した。

3．主なプロジェクトとして取り組んできたこと（段階的にプランを立てて実施）

（ア）ステップ１⇒スポーツの市民浸透/食資源・観光資源の磨き上げ）

・市民とスポーツのつながりを深め、環境整備と食資源と観光資源の磨き上げ

（イ）ステップ２⇒スポーツと食資源の連携と融合

・連携の仕組みづくりと食とスポーツの融合

（ウ）ステップ３⇒食とスポーツによる地域振興・観光誘導

・情報発信の充実と受け入れ態勢の整備、スポーツツーリズムの実践

４．今後、実施を検討すべき取り組みとしては

（ア）ステップ１

・プロスポーツチームサポーターの店舗設置

・渡良瀬遊水地のサイクリング推進

・プロスポーツ試合観戦支援

・「自転車の駅」の設置

・周辺観光ルートの策定、・栃木市ブランドの再構築など

（イ）ステップ２

・フルーツ街道の有効活用

・ブルワリーやワイナリーの整備促進

・地域スポーツコミッションの設立

・プロスポーツ観戦者への飲食提供など

（ウ）ステップ３

・栃木市観光交流館「蔵なび」の有効活用、週大会等の宿泊者への支援

・スポーツツーリズムに係る庁内体制の確立、インバウンドの対応強化

５．具体的な成果

現在４つのプロスポーツチームと連携協定を締結し、スポーツを通しての地域活性化、市民の健康づくり、青少年の育成に関する事項を連協・協力し進めている。

（サッカー）今シーズンよりＪ３で活躍する「栃木シティフットボール」

・食との融合として、スタジアムの地区に農産物直売所・フルーツ狩りのできるフルーツパークを活用し販売、栃木産を使ったＢ級グルメを提供、ＰＲを行う。

（野　　球）地域独立チームに加盟する「栃木ゴールデンブレーブス」

（自転車）プロサイクルロードレースチームの「宇都宮ブリッツェン」

・自転車レースイベントにキッチンカーによるおもてなしを行い地元産のものをＰＲ。

（バスケットボール）今シーズンＢ１リーグで優勝した「宇都宮ブレックス」

その他、「女子硬式野球大会・栃木さくらカップ」を開催し、令和５年には「女子野球タウ

ン」に認定され、シティープロモーションに活かしていくことも行っている。

県外から「本市にお越しいただいた選手・関係者・保護者などに対して、本市の農産物を広くＰＲできるよう、地域の農業関係団体と連携し、新たな視点での地域づくりを行っている。

6．栃木フードバレー構想「とちぎ　おいしいとこ　フードバレー」を推進し目指す

栃木市では、県内有数の生産量を誇る質の高い農畜産物が生産されており、食品関連産業においても伝統的な老舗食品企業から産業団地に進出している大型食品企業など、多種多彩な商品を製造する多くの食品関連企業が立地しています。

食品関連企業と栃木市が誇る農畜産物や地下水などの食資源を、連携・融合させ、企業と生産者とマッチングを図り、農畜産物を積極的に有効活用して新たな商品開発及び販路の開拓・拡大を推進し、「食」を柱とした地域経済の活性化を図ることを目指し、方針を定め取り組んでいます。

（事業の方針として）

・食品関連企業と農畜産物生産者とのマッチング
・新しい商品の開発に向けた支援
・販路開拓、販路拡大と輸出への取り組み
・情報発信と新商品のＰＲ
・食・スポーツ・教育と連携した取り組み
・食と観光に関する取り組み

7．質疑応答

・(質) 栃木市の食に関しての施策で、小江戸ブランド・江戸料理など特に反響のあった料理についてお聞かせください、

・(回)ブランドについては平成26年度から始めたものであるが、小江戸ブランドとして認定し、シールを張って分かるように表示し、道の駅などで販売している。江戸料理については、江戸エッセンスを使った料理を江戸料理として定義づけている。また、ＬＩＮＥ・ＳＮＳで発信し、江戸料理弁当を鉄道会社と連携して東京の方でもＰＲしている。

・(質) スポーツ誘客についての数値目標・経済効果についてあれば聞かせてほしい

・(回) 特に把握していない。また、数値目標はスポーツ課として持っていない。

・(質) プロスポーツを応援する食と融合した商品についてあれば聞かせていただきたい

・(回) 食とスポーツの融合した第２次スポーツ振興計画では、スポーツの振興について市民満足度・スポーツ応援団の加入者数の目標を掲げているので共通している部分であると考えます。

・(質) スポーツと食を結びつけたのは市の合併による融合により進められたと思いますが、総合政

策課に於いて計画していくきっかけは、トップダウンの形で取り組んだのか。

・(回) 合併時の一体感を検討していく中で、新生栃木市の優位性を考え各課の方で提案していただき政策課の方で融合して政策としてまとめていった。

・(質) 自転車プロスポーツ宇都宮ブリュッセンに施設の管理運営委託を行っているが経緯は。

・(回) 自転車の拠点にしたいという思いと、子供たちに身近に感じていただきたい部分もある。いずれは指定管理としていきたい。

・(質) 近隣の市町との自治体同士の連携があればお聞かせください。

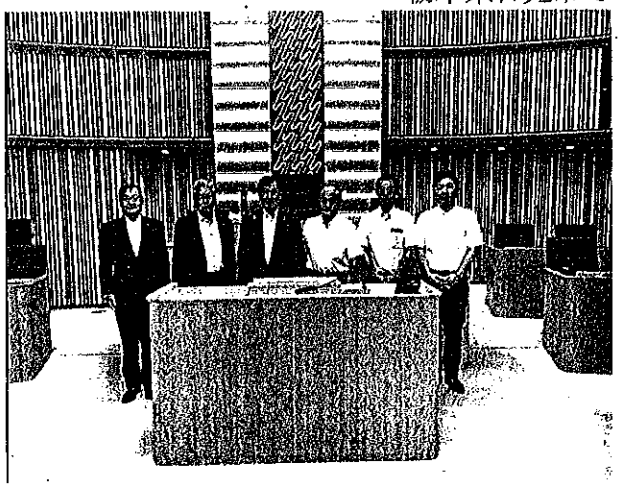
・(回) 今のところ特にありませんが、県内に渡良瀬遊水地のサイクルロードの路面表示を県が中心になって行っていることはあります。栃木ホームスタジアムが市内にあるので、利用チームが増えてきているので、他市との協議会的なものの設立をしていく必要があると考えている。

・(質) 地域観光課振興計画の策定について、この計画自体は職員の皆さんの手作りなのか、コンサルによるものか教えてください。

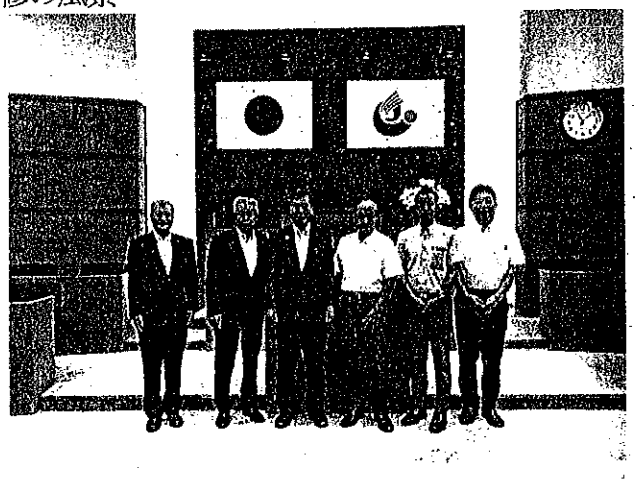
・(回) 庁内の関係課と連携してすべて職員の手作りで考えたものである。

8．視察先での研修及び議場の記録

栃木県日光市での研修の風景



日光市役所　市議会の議場にて



栃木市役所　市議会の議場にて

（所感）

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　勢風会　久保　真

①「ちょこっとスタバケ日光」の取組について

令和７年７月８日（火）栃木県日光市　9:30～11:00

令和５年、働く人一人一人が多様な休み方を選択し、充実した余暇を過ごすことで生活を豊かにするだけでなく、仕事の質を高め（＝労働生産性の向上）、ワーク・ライフ・バランスの充実へと繋がる休み方改革を進めるよう全国知事会から提言が発出されたことにより、ワーク・ライフ・バランスの充実のため市内産業において年次有給休暇の確実な取得を促進するとともに、子どもと保護者のふれあいの機会を増やすことで休暇満足度の向上を図り、併せて安定した雇用の確保、生産性の向上を推進する事を目的に検討されてきた。また、教育委員会の中では休み方改革の中で議論を進めていく事を求められたが、観光関連産業等で働く人が多いという特殊性の中で新たな労働政策の１つとして市内の各産業で働く人の休み方改革の推進とともに市内の小中学生を対象に平日における活動休暇を認めることが必要と平日の家族との学びと、ふれあいの機会をふやすための制度が導入された。

当市に於いても地域差はあるものの観光関連産業が多く、平日休暇日の活用を広げることで、年次有給休暇の取得促進や休み方改革に繋げられると考えられ、市内産業の雇用確保の効果が期待できる事等から導入に向けての調査研究が必要と考えます。

②「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画」について

令和７年７月９日（水）栃木県栃木市　9:30～11:00

栃木市は４つのプロスポーツチームと連携協定を締結し、スポーツを通しての地域活性化、市民の健康づくり、青少年の育成に関する事項を連携協力して進めておりチームが無料で招待するなど、市内の子どもから高齢者までプロスポーツチームが身近にあり、「みるスポーツ」としても市民に浸透してきている。また応援するチームがあることで笑顔が増え、生きがいにも繋がり「するスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進に向けた事業の展開も検討中である。その中で市内の農産物や観光資源をＰＲするために関係団体と連携協力し、食とスポーツの融合により来訪者、チーム、農業観光関係団体が共に潤い経済が循環できる仕組みづくりを構築することで地域活性化につなげている。プロスポーツチームとの連携は必ずしも本市に本拠地がなくても可能であることから、県内のプロスポーツチームとの連携を視野に食とスポーツによる地域活性化、観光振興計画に盛り込んでいただきたいと考えます。

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　勢風会　吉岡　勝裕

（ちょこっとスタバケ日光の取組みついて）

日光市は、日光東照宮を始め、世界遺産「日光の社寺」や自然景観が魅力で、国内外から１，０００万人を超える観光客が訪れる観光都市である。

ちょこっとスタバケ日光の取組みは、愛知県が始めた一般的にラーケーションといわれる制度で、児童生徒が平日に保護者等と一緒に休みを取り、家族との学びやふれあいの機会を設ける、全国で増えつつある制度である。当市も観光業や飲食業などの第三次産業従事者が約７割と多く、土日祝日といった日は仕事で、平日が休みという保護者も多い。平日の休日に、学校を休んで子どもと様々な活動をし、欠席扱いにならない制度は、休み方改革や働き方改革にもつながり、生活の満足度向上にもつながるのではと思う。現在でも、子どもを欠席させて旅行に行ったなど聞くことがあるが、子どもと堂々と旅行や校外学習に出かけていただけたらと思う。また、小学生３４％、中学生２２％が制度を利用したと聞いた。多くの利用があり、担当からは周知不足もあり、今後も増えていくのではと聞いた。年間数日程度であるので、休んだ分の補習は可能と考える。関係者アンケートなどはこれからと聞いたので、また調査していきたい。先日、志摩市では三重県で初の取組みで９月から、また沖縄県でも９月から同様の制度を始めるとの報道があった。伊勢市も制度を構築し導入してはと考える。商工部門や教育委員会等に働きかけていきたい。

（食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について）

栃木市ではサッカー・バスケット・野球・自転車などのプロスポーツチームが活動している。また農業も盛んで、豊富な農畜産物も栃木市の特徴である。栃木市の特徴的な食とスポーツのいいところをコラボして、更に伸ばしていこうという取り組みは、大変いい取り組みだと感じた。食とスポーツの好循環として、連携・利便性・発信力とお聞きした。関係の部門が連携していくことで、相乗効果が生まれる。伊勢市もスポーツ大会等においてはスポーツと観光・商工部門が連携したり、また教育では農林水産と連携したりといった事業があるが、もっとやっていけることがあるのではと感じた。伊勢市には有名なプロスポーツチームはないが、スポーツが盛んで、Ｊリーグ昇格を目指すFC伊勢志摩のサッカーチームや、先月世界チャンピオンとなったキックボクシングジムがある。また、全国から参加いただいているお伊勢さんマラソン、神宮奉納社会人野球や大相撲などの色んなイベント等が実施されるが、もっといろんな部門と連携していっていいのではと思った。また、県営陸上競技場や体育館・サンアリーナなど、県や施設の指定管理者とも連携して、スポーツ振興にもつなげていきたい。今回の研修で、食文化やスポーツの活性化におおいに効果があるものと感じた。今後の活動に活かしていきたい。

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　勢風会　　三野 泰嗣

＜研修概要＞

ちょこっとスタバケ日光の取組について

日時：令和7年7月8日（火）9:30～11:00

場所：日光市役所（栃木県日光市今市本町1）

＜所感＞

令和6年度より日光市が導入した「ちょこっとスタバケ日光」について視察させていただきました。本制度は、「スタディ（学習）」と「バケーション（休暇）」を組み合わせた日光市独自の取り組みであり、保護者と子どもが平日に一緒に学びや体験活動を行うことを可能にする制度です。

日光市では、観光産業などのサービス業に従事する方が多く、週末や祝日に勤務せざるを得ない家庭も少なくありません。そのため、平日に休暇を取得し、家族とのふれあいや学びの時間を確保する仕組みとして、本制度が創設された背景があります。国全体で進められている「働き方改革」や「休み方改革」の理念を具体化した先進的な施策であると感じました。

制度の内容としては、市内の小中学生が年間最大3日間、保護者とともに活動する日を「活動休暇」として取得できるもので、事前に学校に届け出ることで、その日は欠席扱いとならず「出席停止・忌引等」と同様に取り扱われます。活動の例としては、自然観察や施設見学、芸術鑑賞、体験活動などが挙げられ、地域資源を活かした学びが推奨されています。

視察の中で特に印象的だったのは、制度が単なる特別休暇ではなく、子どもの「学びの機会」として明確に位置づけられていたことです。また、制度設計の段階から教育委員会や商工会議所などと連携し、地域全体でこの取り組みを支えている点にも感銘を受けました。

このような取り組みは、家族とのふれあいの時間を確保するだけでなく、年次有給休暇の取得促進や観光業の平日需要の平準化、さらには市内産業の活性化にもつながる多面的な効果が期待されます。

伊勢市においても、サービス業に従事する市民が多く、同様の課題を抱えていると思います。本制度は、伊勢市にとっても大いに参考になる取り組みであり、今後、地域の特性や市民のニーズを踏まえた柔軟な働き方・休み方の支援策として検討していく価値があると感じました。

＜視察概要＞

食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について

日時：令和7年7月9日（水）9:30～11:00

場所：栃木市役所（栃木県栃木市万町9-25）

＜所感＞

栃木県栃木市における「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画」について視察を行いました。栃木市では、合併後の新たな市域の特性を活かし、プロスポーツチームの存在や豊富な農産物、そして歴史ある観光資源を融合させた地域振興策に取り組んでおり、非常に先進的で示唆に富む事例と感じました。

特に印象的だったのは、「スポーツを通じて人と資源を“つなぐ”まち」というビジョンのもと、プロスポーツの拠点整備を起点としながら、市民とスポーツの関わりを深める取り組みや、観戦時に地元産の食を楽しめるような環境づくりが具体化されていた点です。例えば、フルーツ街道の活用や、地元農産物を活かしたスタジアムグルメの提供、食と観光を融合させたスイーツ開発など、多角的な展開がなされていました。

また、スカイスポーツやサイクルスポーツといった地域ならではの資源に注目し、それらを活かした観光コンテンツの磨き上げも行われており、従来型の観光にとどまらない「体験型・回遊型観光」の実践は、今後の伊勢市の観光政策においても大いに参考になると感じました。

さらには、食・スポーツ・観光それぞれの分野をまたいだ庁内連携体制の整備や、SNSを活用した戦略的な情報発信、市民や来訪者による自発的な発信の促進など、持続的に成果を上げるための仕組みづくりも丁寧に設計されていました。

伊勢市においても、観光資源に恵まれている一方で、地元の食やスポーツとの連携については、まだ多くの可能性があると感じています。今後、こうした栃木市の先進事例を踏まえつつ、伊勢市ならではの強みを活かした“多分野融合型”の地域活性化・観光振興施策を検討していきたいと考えています。

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　未来創成　鈴木　豊司

令和７年７月８日・９日の両日、栃木県「日光市」及び「栃木市」において、「勢風会・未来創成合同」の「先進地視察」に参加したので、その所感について報告する。

１　栃木県日光市「ちょこっとスタバケ日光の取り組みについて」

「スタバケ」とは、スタディ（学習）とバケーション（休暇）を組合わせた日光市オリジナルの言葉で、保護者等のワーク・ライフ・バランスの充実が目標の一つにあり、児童・生徒には、平日の３日間、休みを取得することが可能で、その間、保護者等と一緒に学び、活動することができる制度となる。

この制度は、令和５年度から始まった愛知県と大分県別府市における「ラーケーション（ラーニング(子供の学び)とバケーションの組合せ）制度」と同内容であり、「志摩市」が本年９月から導入するという報道があったように、全国的な広がりが見えつつある状況にある。

視察前までは、教育現場での施策と理解していたが、観光関連産業等への従事者が多いという「日光市」の特殊性から、新たな労働政策の一つとして商工部門を主体に策定した計画ということには、意外性を感じたところである。

また、この制度を運用する教育サイドにおいては、保護者等の「等」の範囲が不明確なうえ、「届出シート」さえ提出すれば何でもできそうで、行政の対応としては、非常に多くの曖昧な部分が見受けられた。

このことは、制度開始初年度ということで致し方ないかも知れないが、今後の制度検証を期待をするとともに、先進事例として、全国に誇れる「スタバケ」が確立されることを強く望むところである。

2　栃木県栃木市　「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について」

栃木市は、多くのプロスポーツの団体が活動し、市民が身近に観戦できる状況にあり、米やいちご、ぶどうなどの農業も盛んで、多様な食品産業が立地する一方、歴史的建造物による街なみや、太平山、渡良瀬遊水地など観光資源も豊富な環境にあった。

今回の研修目的である「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画」は、栃木市に置かれた現況を背景にして、「スポーツツーリズム」の理念のもと、食資源、スポーツ資源、観光資源を繋ぐための仕組みづくり、食とスポーツを生かした地域の活性化及び観光振興を図るためのビジョン、実現方策が示されていた。

計画策定の前、既に締結されていたプロスポーツ「4」チームとの「連携協定」が、計画策定のプロセスの中で、大きな原動力になったものではないかと考える。

なお、今回の「地域活性化及び観光振興計画」策定において一番評価すべき点は、コンサルを通すことなく、職員のみでの対応、職員の手作りであることに尽きると思う。

プロスポーツクラブ「空白県」に位置する「伊勢市」では、到底考えられない施策であるが、職員の手作りによる計画策定は、計画策定に多くの経費を費やしている「伊勢市」の対応を見直す、絶好の機会ではなかったかと感じた。

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　未来創成　大西　要一

7月8日（火）

（日光市）　ちょこっとスタバケ

「スタバケ」は、スタディの勉強とバケーションの余暇の造語で、一般的には、ラーケーションが使われていますが、日光市さんの造語で独自性がうかがえる。

背景に、保護者の働き方改革がある。日光市は伊勢市と同様に観光都市で、観光業に従事する保護者も多く子どもの休みと保護者の休みが一致しないことが多いようである。保護者には、有給休暇の取得の促進、子どもとの絆が深まるなど効果が期待できる。また、この制度は、近隣自治体では無く、雇用に対しインセンティブになることも狙っているのである。

観光都市である伊勢市での導入は、教育委員会との調整はあるものの、平日の保護者の有給取得、子どもの様々な体験に繋がり、メリットは多いように思う。伊勢市単独ではなく、広域で実施すれば、広域自治体それぞれでいろんな目的の旅行や体験のプログラムを考え、伊勢市にとっても近隣からの誘客に繋がり経済の活性化が図れるものと思う。

7月9日（水）

（栃木市）　　食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画

栃木市は、平成の大合併で１市５町が合併し、イチゴ、ニラ、ぶどう、トマトなど特産品の市町が集まった。一方で、プロスポーツも多く市に在籍している。バスケット、野球、自転車、サッカーなどである。この、特産品とスポーツをつなげ、計画を立てて地域の活性と観光の振興を目指しているのである。計画は、ステップ１から３を目指しているが、スタジアムでのグルメや食のコンテンツなどを積極的に発信し、スポーツツーリズムで観光客を見込むものである。

伊勢市でも、サッカー場や人工芝の野球場もあり、市民がスポーツに親しんでいるが、観光や農業部門ともタッグ組めば、伊勢市独自のものが計画できるように思う。マリンスポーツ、山登り、渓流などもあり、プロスポーツとは異なるが、体験型と豊かな食材を活かせば、多くのインバウンドも期待できるのと思う。

栃木市さんの例は、伊勢市の新たな観光につなげられると思うので、ぜひ観光を中心にしたプロジェクトなどを立ち上げてほしいと思います。

勢風会・未来創成管外行政視察（所感）　　未来創成　北村　勝

1　栃木県日光市「ちょこっとスタバケ日光の取り組みについて」

日光市における取り組み「ちょこっとスタバケ」について詳しくお聞かせいただきました。

「スタバケ」とは、子どもの学習（スタディ）と、保護者の休み（バケーション）を組み合わせた日光市オリジナルの造語で「ちょこっと」は、年間で3日取得可能な制度であり、気軽に利用を促進する意味を込めているとお聞きし、なるほどと感心しました。

現在進む少子高齢化による労働人口の減少や働く人のニーズの多様化により、多様な働き方を選択する社会の実現に向けて働き方改革が進められているが、日光市ではこの「スタバケ」を令和6年度から取り入れ、働くなかで多様な休み方を選択し仕事の質を高めるためにワーク・ライフ・バランスの充実へとつながる目的として始めたとお聞かせいただいた。

制度の効果として、余暇満足度の向上を図る、家族と触れ合いを重視した休日の過ごし方の幅が広がり年次休暇の促進につながる、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ市内産業の組織力強化と業務効率の向上が期待できると聞き、企業・保護者も好意的である。また、子どもたち、学校、社会全体もすべてに良好な効果を生み出していることを伺うことができた。

ただし、休暇（休み）を取るために届け出シートに、家族で、日にち、場所、内容を決めて前日までに提出し、当日は保護者と共に体験や活動を行うことであるが、終了後の報告が不用であるのが少し不安を感じる部分であった。欠席については、出席総日数からその日数を引くので欠席扱いとしない部分では納得、特に重要な日をできるだけ避けることも保護者に提示して進めていることも理解致しました。

愛知県から活動が導入されはじめ、三重県においても志摩市が今年度途中から導入されると伺っているが、本市においてもとても参考になる取り組みであると実感致しました。今後、本市でもしっかり検証し、伊勢市ならではのスタバケ導入に向けて検討し進めていただきたいと思いました。

2　栃木県栃木市　「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画について」

栃木市は、平成26年4月に合併と同時に食とスポーツによる観光振興計画に着手し、新しい栃木としてそれぞれの地域資源・スポーツをも資源として結び付け、交流人口や地域産業活性化に繋げてきたと実感しました。

栃木市は農業が中心のところであり、施設も充実していることから、プロスポーツの招へいにも積極的に取り組んでいたが、日立製作所で活動する実業団スポーツチームからの移行によるプロスポーツチームの誕生から4つのプロスポーツチームの誕生に至った。

プロスポーツ観戦やスポーツ体験、飲食・宿泊・土産・をコラボした観光誘客には全国からの認知度や誘客にも非常に効果的で成果が出ていることに改めて感心しました。数値的目標や効果の検証のところをもう少し具体的に把握され伺うことができればよかったと感じました。

本市におきましては、アリーナ・サッカー場・野球場はあるもののプロスポーツを誘客に至るには難しいところもあるのかもしれないですが、スポーツへのすそ野を広げ、素材として観光につなげる目玉を生み出していくことも検討していくべきと思いました。特に、農業や他の産業とも融合させながら政策立案し、庁内全体で連携し推進していく必要性を改めて感じました。

本市でも、大きな大会ができる環境づくりに注視し、スポーツツーリズムでの誘客に力を入れることを検討していくことが重要であると思いました。